

6/20

『日本の声』の政治的インパクトは何時治まるか……?

昨日6.20実行委に於て14日の「教授デモ」への
連帯に非難集中! 『日本の声』は何処へ行く!

本日文学部決起集会(1階教室)→3時統一集会

めとする全市大の闘う学生、院生、教習が大学治安立法粉砕御堂筋デモに決起せんとしている。我々文闘委は6.20実行委に向う原則的立場を貫徹して臨み、改革闘争委(『日本の声』のギマン的態度、即ち、6.14教授会連合デモに無批判に追随したことの自己批判なしに6.20実行委に参加しようとする態度、を糾弾した。徹底した討論の後、実行委として、6.14教習デモの本質がギマンであることを声明する旨確認した。即ち争を一貫して圧殺し、しかも現在、中教習答申—大学立法の学内体现者として在る教授会を何う追及せず、中教習答申—大学立法に反対声明を出したか—と云う彼らで免罪し、デモという積極的行動に出たか—と云う彼らに教習の後について行くというのが日本の声の態度である。教授会の大学立法反対デモが二重の犯罪性(一)自らが中教習路線の具体的体现者でありながら反対しているかのよつたポーズをとること(二)を持つことと追及せず無批判に教習デモを評価しすることは、自らも二重の犯罪性を犯すことに他ならない。我々はそのような日本の声のギマン的態度を追及し、彼らの論理の破産を宣告し、実行委の圧倒的多数の同意のもと、前述のよつた確認をかうした。我々は日共、民青の如きセクト主義を断固として排するものだが、行動の統一が単なる多数獲得のためのものになること、目的なしの「運動」のための運動に陥いってしまうことをも拒否する。我々は、大学治安立法粉砕デモと、その学内に於ける具体的体现者である教授会を追及し粉砕することにより、実態的に立法策動を粉砕していくこととして設定している。そのような立場に立つためのゆる部隊と連携してやっていくつもりである。

本日の6.20全市大統一行動を突破口として、あらゆるギマン性と动摇性を排し、強固な大学治安立法粉砕の陣地を築け! 首尾一貫して断固として行動することか、市大斗争の新たな局面を切りひらくことが可能なのだ。

市大の地に大学治安立法粉砕の戦斗的部隊を創出せよ! 全市市大の斗争学生、院生、教習は本日、御堂筋デモに決起せよ!

6/20 文闘委